

-NEWS RELEASE-

【地域連携カフェ】 特別編 開催します

『東日本大震災からの復興事業からみたコーディネーションのありかた』について

2月9日(土)「地域連携カフェ」特別編を永国寺キャンパスにて開催します。東日本大震災の発生以来、被災地では地域産業再生や地域活性化に向けた様々な取組みが継続的に行われています。

「蘇るサバ缶」著者の須田 康成氏による基調講演の他、「水産資源」「食品加工」「地域ブランド」をキーワードに、高知工科大学との産学連携プロジェクトに関わってきた民間企業等の関係者をお招きし、それぞれの事例について紹介いただきます。さらに、これらの連携事例からみた大学と地域連携のありかたについて、会場の皆様とともに考えます。



震災と希望と人情商店街
須田 康成
22万部
世界初版



©須田泰成、廣済堂出版

「地域連携カフェ」

地域活性化に活躍されている学内外の方をお招きし、お茶やコーヒーなどを飲みながら気楽に意見交換や情報交流ができる場を目指して平成23年より開催しており今回26回目をむかえます。

今回特別編として、3名の講師の方に登壇いただき、事例を聞きながら魅力ある地域づくりのために重要なことについて学びます。さらにパネルディスカッションにて地域連携と大学の在り方について掘り下げます。

第26回「地域連携カフェ」 ※別紙チラシ詳細

「東日本大震災からの復興事業からみたコーディネーションのありかた」

日時：2019年2月9日(土) 13:30-17:30

場所：高知工科大学 永国寺キャンパス 教育研究棟A105 教室
(高知市永国寺町2番22号)

参加費：無料

1.基調講演：(13:40-14:40)

「蘇るサバ缶」著者 須田 泰成氏による基調講演

2.高知工科大学と民間企業との産学連携プロジェクト事例紹介(14:50-16:10)

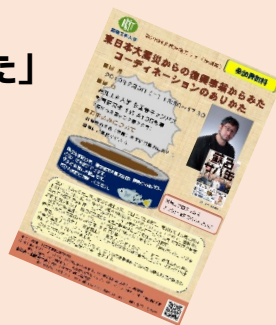
「地元水産加工物の付加価値向上に向けて」

釜石ヒカリフーズ株式会社 代表取締役 佐藤 正一氏

「非常食から日常食へ！防災備蓄缶の開発」

高知工科大学 特任教授 松崎 了三

3.パネルディスカッションー大学と地域連携のありかたについてー(16:20-17:30)



【本リリースに関するお問い合わせ先】

高知工科大学 企画広報部 長山・谷相(たにあい)

TEL.0887-53-1080

E-mail: kouhou@ml.kochi-tech.ac.jp

「東日本大震災からの復興事業からみたコーディネーションのありかた」



1. 基調講演：（13:40-14:40）

すだ やすなり

「蘇るサバ缶～震災、希望、人情～」 須田 泰成 氏

石巻の津波で泥に埋まった缶詰を掘り出し、一つずつ洗って販売した
世田谷経堂の商店街との取り組み『蘇るサバ缶～震災と希望と人情商店街』
を執筆した須田 康成氏による講演

津波により壊滅した「木の屋石巻水産」と世田谷経堂の商店街の震災前からの「サバ缶」
を巡る取り組み、繋がりが商店街の個々の店の差別化（チェーンに負けない）」という取り組み
をし、ほかと違うレシピなどによりブランド力のある商店街＆個々の店が出来上がった。
震災後、「あのサバ缶が食べられなくなる」という喪失感が拡がる中で、泥と油だらけの工場
から「サバ缶」が出てきた。そこから、サバ缶を巡る復興支援がはじまった。

2. 高知工科大学と民間企業との産学連携プロジェクト事例紹介（14:50-16:10）

「地元水産加工物の付加価値向上に向けて」

さとう しょういち

釜石ヒカリフーズ株式会社 代表取締役 佐藤 正一氏

高知工科大学 ^{まつもと やすのり} 松本 泰典准教授が製造技術確立した
「スラリーアイス」は高鮮度保持技術を飛躍的に向上させた。
このスラリーアイスを用いるなど、「釜石ヒカリフーズ」による三陸
水産・加工業の課題解決やさらなる高鮮度保持、水産物の
付加価値向上に向けた取り組みを紹介する。



まつざき りょうどう

「非常食から日常食へ！防災備蓄缶の開発」 高知工科大学 特任教授 松崎 了三

黒潮町での雇用と新産業創出に向けた「毎日食べたい非常食」をキーワードとした防災備蓄
缶の開発について本学との連携事例を紹介する。



3. パネルディスカッション

大学と地域連携のありかたについて（16:20-17:30）

これらの連携事例からみた大学と地域連携のありかたについて、会場の皆様とともに考えます。



高知工科大学

第26回地域連携カフェ（特別編）

参加費無料

東日本大震災からの復興事業からみた コーディネーションのありかた

■日時

2019年2月9日（土）13:30～17:30

■場所

高知工科大学 永国寺キャンパス
教育研究棟 1階 A105教室
（高知市永国寺町2番22号）

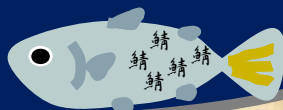
■お申込みについて

参加者の氏名（所属）を下に記載の申込先に
事前にご連絡ください。



©須田泰成、廣済堂出版

学内外を問わず、地域連携や地域活性に興味のある方は、
どなたでも参加できます。
学生の参加も大歓迎です。
ぜひお気軽にお越しください。



※当日プログラムは
チラシ裏面をごらんください。

2011年3月の東日本大震災の発生以来、今日にいたるまで、被災地では地域産業再生や地域活性化に向けた様々な取組みが継続的に行われています。この中で、宮城県石巻市での津波で泥に埋まった缶詰をひとつずつ手洗いして売ったという世田谷区経堂商店街での取組みは、地域や立場を超えた連携事例としても注目されます。

今回の地域連携カフェでは、この取組みの中心人物でもあり、「蘇るサバ缶」の執筆者でもある須田泰成さんを講師に迎えて開催します。

また、「水産資源」「食品加工」「地域ブランド」をキーワードに、高知工科大学との産学連携プロジェクトに関わってきた民間企業等の関係者もお招きし、それぞれの事例について語っていただきます。

さらにパネルディスカッションでは、これらの連携事例からみた大学と地域連携のありかたについて、会場の皆様とともに考えます。

主催：高知工科大学地域連携機構

後援：釜石ヒカリフーズ(株)、(株)木の屋石巻水産、(株)黒潮町缶詰製作所、高知県、

高知新聞社、RKC高知放送、KSSさんさんテレビ、KUTVテレビ高知、NHK高知放送局

申込先・お問合せ先：高知工科大学 研究連携課

Tel: 0887-57-2025 E-mail: rc@ml.kochi-tech.ac.jp 申込みはこちら→



■プログラム：※敬称略

○基調講演（13:40-14:40）

蘇るサバ缶 ～震災、希望、人情～

須田泰成（作家、放送作家、脚本家、プロデューサー）

○連携事例の紹介（14:50-16:10）

地元水産加工物の付加価値向上に向けて

佐藤正一（釜石ヒカリフーズ株式会社 代表取締役）

非常食から日常食へ！防災備蓄缶の開発

松崎了三（松崎地域計画本舗 代表/高知工科大学 特任教授）

○パネルディスカッション（16:20-17:30）

パネラー

須田泰成（作家、放送作家、脚本家、プロデューサー）

佐藤正一（釜石ヒカリフーズ株式会社 代表取締役）

松崎了三（松崎地域計画本舗 代表/高知工科大学 特任教授）

箭野 謙（科学技術振興機構 産学連携展開部/

元 JST復興促進センター盛岡事務所長・マッチングプランナー）

ファシリテーター

佐藤 暢（高知工科大学研究連携部）



高知工科大学

■会場までのアクセス（高知工科大学 永国寺キャンパス）

（高知市永国寺町2番22号）



会場：教育研究棟1階
A105教室

大学キャンパスには駐車場がございません。
お越しの際には、公共交通機関をご利用ください。

主催：高知工科大学地域連携機構

後援：釜石ヒカリフーズ(株)、(株)木の屋石巻水産、(株)黒潮町缶詰製作所、高知県、

高知新聞社、RKC高知放送、KSSさんさんテレビ、KUTVテレビ高知、NHK高知放送局

申込先・お問合せ先：高知工科大学 研究連携課

Tel: 0887-57-2025 E-mail: rc@ml.kochi-tech.ac.jp

申込みはこちら→

